

酒好きほぼ 100 人に聞くアンケート「酒飲みのミカタ」

籠って変わったわたしの家飲み

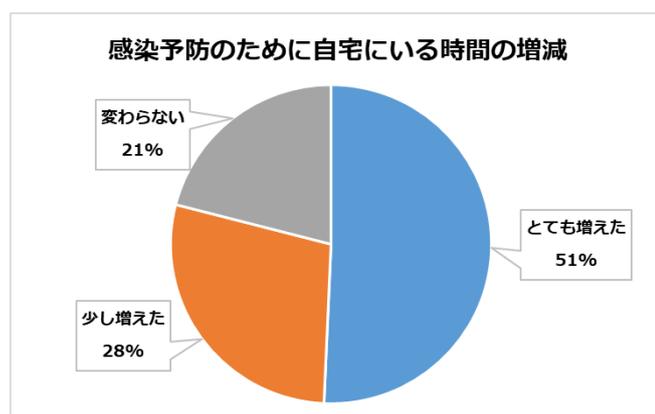
「家にいよう」と言われてかれこれ 4 週間。今年のゴールデンウィークは「ステイホーム・ウィーク」と呼ばれ、まだ、しばらくは家に籠っていなければなりません。

今回の酒好きほぼ 100 人に聞く「酒飲みのミカタ」のテーマは、「籠って変わったわたしの家飲み」です。新型コロナウイルス感染予防対策でご自宅にいる時間が増えて、家飲みのがどのように変わったのかをお聞きしました。

■自宅にいる時間が「増えた人」は 8 割

最初にご回答いただいた方の自宅にいる時間の増減を確認します。「あなたは新型コロナウイルス感染予防のためにご自宅にいる時間が増えましたか？」という質問では、「とても増えた」が 51%と最多、「少し増えた」の 28%と合わせて 79%が自宅で過ごす時間が増えています。

「減った」は一人もおらず、「変わらない」には「もともと年金生活でずっと自宅にいる」「専業主婦なので以前から家にいます」という方も含まれています。実際にはもっと多くの方が自宅で過ごす時間が増えていると言えます。



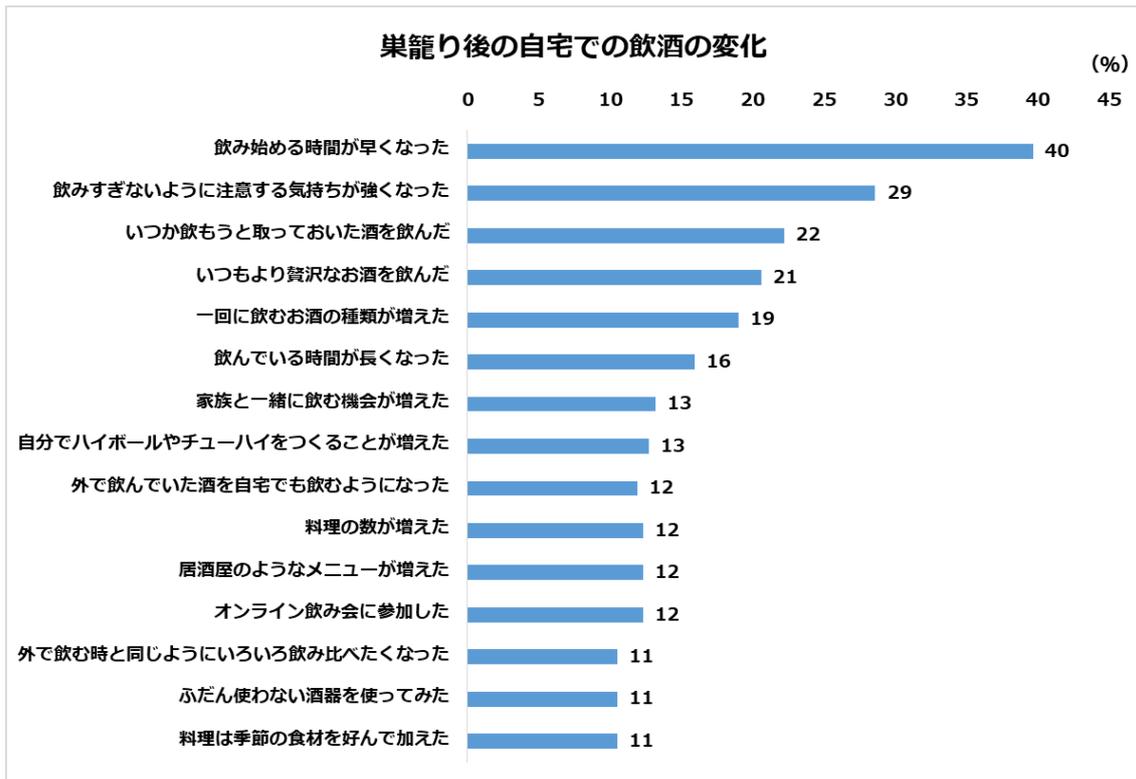
■「飲み始める時間が早くなった」が 4 割

自宅にいる時間が増えてから、自宅での飲酒にどんな変化があったかを、さまざまな例をあげて該当するものを選んでもらいました。

もっとも多かったのは「飲み始める時間が早くなった」(40%)です。在宅ワークでは通勤が無いので、仕事が終わるとすぐに飲み始められます。上位の項目を見ると、自由な時間が増えたことが、家での飲み方や酒に対する態度の変化に繋がっていることが伺われます。

■高まる飲酒の自制意識

いちばんに目立つ変化は飲酒を自制する意識の高まりです。「飲みすぎないように注意する気持ちが強くなった」は 29%にのぼっています。自由な時間が増えたことで、だらだら飲んだり、酒量が増えたりしないように、飲酒をコントロールしようという気持ちが強まっているのです。巣籠が始まってからも売行きが好調なノンアルコールビールは、「増えた」という方が 4%いました。寄せられたコメントをいくつかご紹介しましょう。



「何杯までと決めて今まで以上に意識して飲んでいま
す。最初の頃に比べると自制が働いてきています。」(50
代・男性)

「金曜日、土曜日、日曜日を飲酒日として平日はノンア
ルコールビール等でメリハリ付けて飲んでいきます。そう
しないと、飲み過ぎる気がします。」(50代・男性)

「家にいても通勤している時と同じように、規則正しい
生活を送るようにすると、お酒もおいしく節度をもって
楽しめる。」(40代・男性)

「家飲みは外飲みより飲酒量がわかる。きりのいい所で
終える。」(40代・男性)



ノンアルコールビールは行動規制
が始まってからも消費は好調

■強まる家飲み充実意識、およそ2割が酒をグレードアップ

自由時間が増えたことで生まれたもう一つの意識は、自宅での飲酒を充実させようとす
る意識です。それは「いつか飲もうと取っておいた酒を飲んだ」(22%)、「いつもより贅沢
なお酒を選んだ」(21%)、「一回に飲む酒の種類が増えた」(19%)、「料理の数が増えた」
(12%)、「ふだん使わない酒器を使ってみた」(11%)などに現れています。この動きは女
性で顕著なようで、女性からのコメントが多く見られました。

「外食にかけていた分、少しいい食材やお酒を購入するようになりました。」(20代・女性)

「外で飲まない分グレードアップしたお酒を楽しめる。」(50代・女性)

「外出できずストレスが溜まりいつもより良い酒で居酒屋気分を満喫。」(40代・男性)

「楽しく呑めるようにつまみを増やすなど工夫している。」(50代・女性)

「通勤時間が減ったのでお酒に合った料理を用意できるようになった。」(50代・女性)

■家族との家飲みで楽しさ発見

また、家族がずっと家にいることから、平日も家族一緒の夕飯になる例が増えているようです。「家族と一緒に飲む機会が増えた」は13%ありました。コメントも多数寄せられています。巣籠で在宅時間が長くなり、働きかた改革で進めようとしている余暇の充実が、垣間見えたのではないのでしょうか。

「夫婦で飲む機会が増えたので、互いにつまみをつくり、会話も増えていい時間を過ごしています。」(60代・男性)

「家族団らんの時間が増え、食事を一緒にとれるのでお酒を飲む頻度が上がった。飲む量に気をつければとても良いとおもう！」(30代・女性)

「自分同様、家族も家に居る時間が長いので、特に成人したての次女と飲みながらいろいろな話しができて、これはこれで有りかな？と思っています。」(男性・50代)

■外飲みを待ち焦がれる声も

近年は飲食店からドリンクの流行が始まることが増えていています。ウイスキーハイボールやレモンサワーはその典型です。巣籠で自宅での飲酒が増えたことで、こうした動きは少し加速しそうです。「外で飲んでいた酒を自宅でも飲むようになった」という方が12%ありました。

そして飲食店で食事することの魅力をあらためて知ったという声も多く寄せられました。

「人と一緒にお店で飲む楽しさを再認識しました。無口で飲むひとり酒は性に合わないこともわかり、と言ってオンライン飲みもしっかりきません。」(40代・男性)

「やはり良酒佳肴のお店で呑みたい！」(60代・男性)

「家では適当な肴がなく飲みたい気持ちはあるが、ほどほ



あえて、あまり使っていなかった酒器で楽しむ



酒をランクアップ。屋外で飲むのも気持ちいい



レモンサワーは飲食店からブーム化、家庭にも広まった

どで諦める。」(60代・男性)

「おいしい料理があってのお酒だとあらためて思いました。」(40代・男性)

■調理の負担が大きくなった

このほか食事の準備の負担が大きくなったという声が寄せられました。家族もずっと家にいると、たしかに負担は重くなります。

すでに30代以下では共働き世帯が主流です。この機会に家事の分担がさらに進むのではないのでしょうか。

「毎日の3食のメニューに悩みます。運動量が落ちているので、つまみはなるべくカロリー控えめにしていますが食べ過ぎ・飲み過ぎで太りそう」(70代・女性)

「主人がテレワークで、17時30分からすぐに飲みだせるため、食事の準備が大変になった。」(50代・女性)



ネットで取り寄せ、自宅で飲み比べ

■酒の購入先は「ネット販売」が増加

最後に酒の購入先の変化を見て終わります。最も多いのは「変わらない」の54%ですが、「ネット販売で酒を買うことが増えた」は15%あります。在宅が長引けばこの変化はさらに進むのではないのでしょうか。

「酒の品揃えが豊富な店に行った」や「飲み比べ用にいろいろな酒を買った」はどちらも9%、「ふだんよりグレードの高い酒を買った」は5%です。家飲みを充実させようとする方々の行動です。酒類専門店にとってはビジネスチャンスにできそうです。■

【調査概要】

調査時期：2020/4/21～4/27 調査方法：インターネットによる自記入式アンケート

サンプル数：138人（お酒好きな人）

【このリリースに関する問い合わせ】

株式会社酒文化研究所 担当：山田聡昭 TEL:080-3918-0453（平日・9:30～17:30）

Email：yamada@sakebunka.co.jp

